

	<h1>志木三小だより</h1> <p>学校教育目標 やさしい子 考える子 丈夫な子</p>	志木市立志木第三小学校
		平成28年度 No.6
		平成28年8月29日
		志木市柏町3丁目2番1号
		TEL 048 - 471 - 1062
		児童数8月29日現在577名



「進んで あいさつ ができる2学期にしよう」

校長 可知 良之

38日間の夏休みが終わり、今日から第2学期が始まりました。2学期は授業日が78日ありますので、じっくり、しっかり取り組んで心と頭と体を鍛えていきたいと思えます。そのために、1学期が終了した時点で上半期の学校評価（自己点検評価）を行いました。詳細については学校ホームページに掲載いたしますが、一部を紹介します。評価項目は全部で18設定し、AからDまでの4段階を教職員が自己評価したものを得点化しました。その結果、最も評価点が高かったのが「PTA活動や地域活動が活発で連携協力している。」でした。1学期のPTA活動や三小おやじの会主催のイベント事業などの活動が高評価の要因かと思われます。2学期更に内容を充実させていきたいものです。

逆に、最も評価点が低かったのは、「子どもたちが先生や来校者に進んであいさつすることができる。」で、この項目だけ著しく評価点が低くなっていました。指導はしていても効果としてはなかなか目に見えてこないのがこの「あいさつ」なのでしょう。

一方、子どもたちはあいさつについてどのように捉えているのでしょうか。埼玉県学力・学習状況調査では規律ある態度について継続して調査を行っています。その中のあいさつに関する項目を見ると、あいさつが「よくできる」「だいたいできる」を

合わせた回答では4年生が約84%、5年生が約65%、6年生が88%と自己評価しています。子どもたち自身も進んで積極的にあいさつをしているとは感じていないことがうかがえます。子どもたちも、これではいけないと思っているのかもしれませんが。

あいさつを漢字にすると挨拶と書きます。この熟語は、本来「押して近づく(進む)」という意味があるそうですが、これは、禅宗のお坊さん同士が出会ったとき、相手がどのくらい禅の知識を持っているのか、探りを入れながら「押して近づいていくことを表す言葉なのだそうです。その意味が転じて「人間同士が出会ったときに交わす受け答え」という意味で「挨拶」が使われるようになったといえます。人と人との絆が大事であると言われていながらもコミュニケーションを取ることが不得手な人が多くなっている今だからこそ、子どもたちには積極的に自ら進んで受け答えを交わし合う力を身に付けてほしいと感じます。2学期は『進んであいさつ』を一つの目標として取り組んでまいります。

どうぞ、ご家庭でも「おはよう」「行ってきます」と明るくあいさつを交わしてお子様を送り出してください。よろしくお願いいたします。

参考：漢字文化資料館 漢字Q&A

大修館書店ホームページ